



目次

海外酪農視察研修……………	2～5	中春別乳牛改良同志会定期総会	10
みらい塾受講生終了レポート	6～7	中春別営農サポート協議会通常総会	11
みらい塾沖縄研修レポート	7～8	別海高校だより……………	12
営農対策情報……………	9	理事会の動き……………	15

みらい塾では視察研修で沖縄の施設を見学しました。暑熱対策や飼養方法を学んだ塾生のレポートを紹介しています。

ニュージーランド・オーストラリア 海外酪農視察研修



ニュージーランド視察編

②

菅農部菅農振興課 相澤 幸司

先月号に引続き海外酪農視察研修報告を掲載いたします。

ラスト氏は牧場経営をしながら、種苗メーカーのパイオニア関連会社のGEN T I C T E C H N O L O G I E S L T D (以降G社)

NZ酪農家視察 ノルディール ラストファーム 生産性を上げるため デントコーンを給与

に勤めています。経営規模は飼養頭数200頭、草地面積は借地合わせて64haとNZの平均より小さい規模となっています。施設はヘリポート19頭スイングパーラーのみで、搾乳時間は2時間程度。季節分娩を行い7〜5月が搾乳期で、7〜9月が出産期とし、牧草の生育が旺盛になる9〜10月に牛群の泌乳ピークを迎えるよう計算して繁殖プログラムを組んでいます。5〜6月は乾乳期となり、生産は行わず長期休暇となります。

パイオニアメイブリスサーチステーション 各地に合わせた飼料用とうもろこしの 品種選抜をするG社の試験圃場

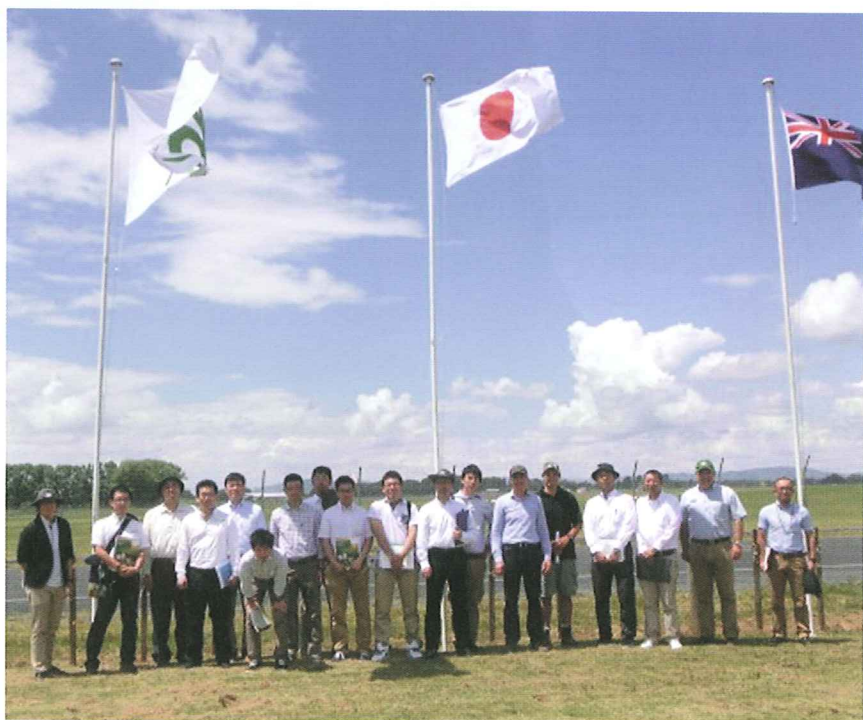
ここはG社の試験圃場で、NZ国内を複数地域に分け、各地に合わせた飼料用とうもろこしの品種選抜を行うために造られ、40年前に設置されました。

北島向けと北島を含むNZ全体向けの品種選抜を行つています。新品種の選抜には、IMPACTテスト(1次選抜の意味合い)とPATテスト(最終選抜)があります。IMPACTテストは、

す。飼養管理では、以前は放牧中心での飼養体系でデントコーンは生産していませんでしたが、生産性を上げるためデントコーンの給与を始めました。合わせてパーム核粕の給与を始め、1搾乳期における頭当たりMS(ミルクソリット)は341kgから414kgへと大幅に増加しました。今後の経営については、土地が高く、取得できないため現状規模の中で効率のよい生産を行っていきたいとのことでした。

品選抜をするG社の試験圃場

海外から持ってきた飼料用とうもろこし種子をサイレージ用およびグレイン用としての試験を行い、地域適性を見極めます。PATテストは品種の特徴や発育状況、たい肥の効果や除草剤の効果などを確認したりし、飼料用とうもろこしの成長や実入りなどのデモンストラーションを行い、酪農家からの評価を調査します。G社はこの施設以外でも、北



G社の試験圃場を視察

島で約60カ所、年間1万の比較テストを行っています。耐病性の確認も行っており、すす紋病・根腐病・カビの発生について調査しています。試験圃場への除草剤散布は土壌処理+生育処理で行っています。マルチビニールの試験も行っており、紫外線を吸収し、より地温を高める新型マルチについて

説明を受けました。(※400NZド/haで従来マルチよりもコストはかかる) ニュージーランドは年間通して気温変動が少なく、積算温度も見込めることから、一般的にはマルチを利用しないとのこと。飼料用とうもろこし収穫後の二毛作として牧草を播種したい場合に利用しているようです。

北半球と逆で北に行くほど温暖な気候となります。北島は冬の平均気温が8℃で霜が降りることもありませんが、ニュージーランド国内では比較的飼料用とうもろこしの栽培に適した地域で



40年前に設置された飼料用トウモロコシの品種選抜

す。南島北部地区の西側は雨が多く栽培可能、東側は乾燥地帯ですが灌漑整備により栽培可能です。南部地区では積算温度が上がり、栽培には不向きな地区となっています。



GAVINS社

買取値段が高く、牧草の量も少なく、そして需要が多いゴートミルク(山羊乳)

GAVINS社はコントラクター業務・グレイン販売・ゴートミルク(山羊乳)生産の事業を行っています。グレイン販売に関してG社と取引があります。

昨年、ゴートミルク搾乳会社の株式を購入し運営を始めました。山羊を230

0頭飼養(搾乳1600頭、育成700頭)、108ポイントロータリーパーラーで搾乳し、1日2回搾乳。1頭当たり5〜6分で搾乳を終えます。牛同様、乳固形分取引で1kgMSで16〜19NZド、年換算で55〜60kgMS/頭となっています。目標は



子供用粉ミルクの原料乳として高値で取り引きされる山羊乳。これは山羊の飼育舎

年100〜105kgMS/頭。規模を2年後には3000頭まで増頭したいとのこと。ゴートミルクは、子供用



1日2回山羊乳を搾乳しています

粉ミルクの原料(※牛乳アレルギー向け)人間のミルク成分に近いとして世界的に需要があり、まだまだ足りない状況となっています(※特にヨーロッパでの需要が多い)。ゴートミルクの生産に乗り出した理由として、「需要が多く、買取価格値段が高い。牛よりも必要な牧草量」が少なく済む」と語っており、ニュージーランドには約50戸のゴートミルク生産農家があります。人間のミルクと異なる点として、衛生面は重要であり基準も定められているようですが、搾乳前の前絞りや乳頭拭拭作業は無く、少し疑問を感じました。

グレイン販売・コントラクター業務

この会社では3500haの飼料用とうもろこしを栽

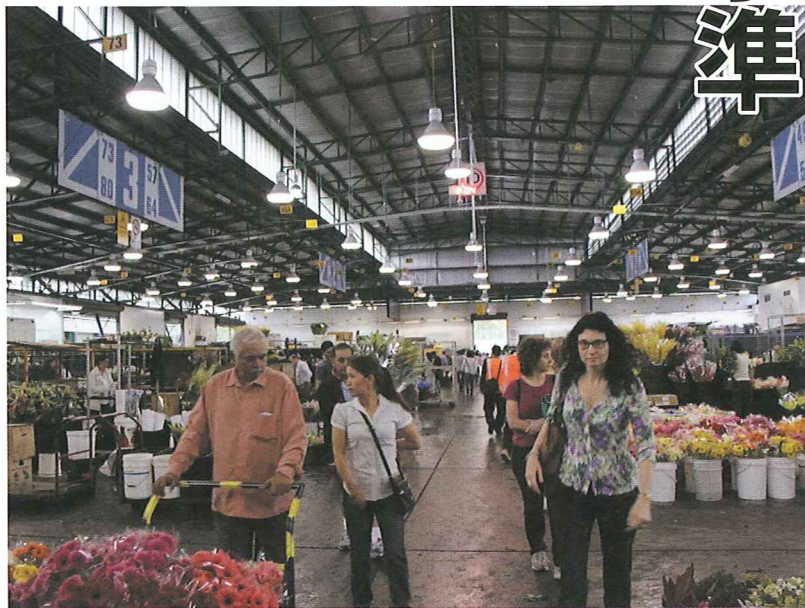
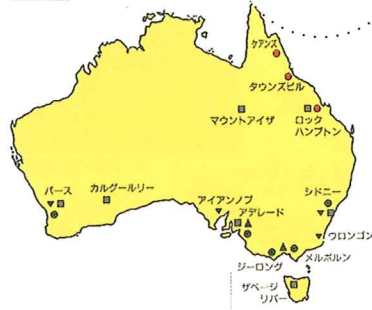
培し、ホールクロップサイレージ(WCS)として7000〜1万t製造しています。これは酪農家に販売しているほか、自社山羊農場でも使用します。WCS以外は、メイズグレインと呼ばれる飼料に加工して販売しています。これは単体丸粒とうもろこしで、飼料用とうもろこしの子実部分を収穫し、チューブサイロ(200t/本)に貯蔵したもの(74〜76%DM)を、機械で乾燥させて出荷しています。(出荷時は86%DMまで水分を落とす)スカンジナビア地方で製造しているものを参考にしており、塩・Mg・その他ミネラル類を添加しています。チューブサイロでは20カ月間保存可能。以前はタワーサイロに保管していましたが、結露が発生するため換気の必要がありました。気密性が高く、品質が良くなったとのこと。製品は北島北部の酪農家400〜500戸に420NZド/tで納めています。中間マージンの削減や製品の品質を考慮し酪農家へ直接販売しています。

オーストラリアの農業は2006年、2007年に歴史的干ばつで大きく減少。

食料安全や検疫検査は 世界再高水準



オーストラリア視察編



多くの買物客が訪れるフレモントマーケット

フレモントマーケット 年間7億ドル超の取引がされる卸市場

- 市場概要
- 許可農産物販売者数 5000人
- 158団体
- 直売花弁農家平均数 140人
- 小売市場長期契約店舗数 2045軒
- 小売市場週末平均数 10万人
- 直売農家平均数 480人
- 卸売市場日平均人 5000人

シドニー中心から西に15km行つたところに、41haの広さを誇るフレモント卸市場があります。ニューサウスウェールズ州農業省所管のシドニーマーケットが運営をしています。

1975年と殺場として



市場内を忙しく走り回るフレモント卸市場

設立され1996年に民営化されており、市場内は大きく5カ所(青果・園芸・バナナ・生産者直売・花卉)に分かれています。売買取引

者は一日当たり5000人が集まり、年間7億ドルを超える取引がされています。一般人でも購入可能だが基本は箱買いとなることから、買える人が決まっています。市場内は値段が決まっていなく相対で決まります。市場内は線の色で一般人(白線)か商売人(黄色線)か分かれており、1ブロック60㎡となっており1店舗当たり2〜3ブロック使用しています。小売市場長期契約店舗は1フロアー1億で買い、大きいところだと2フロアー購入しています。

AUS酪農家視察 グレンモアファーム

水不足になる恐れがあるため灌漑施設を整備、
環境面は政府による厳しい取り締まり

水不足になる恐れがあるため灌漑施設を整備、環境面は政府による厳しい取り締まり

地の品質が悪く、羊しか飼養できませんでしたが、草地の改良を重ね酪農経営へシフト。草地面積は169ha、飼養頭数は220頭、労働力はギャビン氏、妻、父、常時雇用2人で行っています。

現在の経営者ギャビン氏は3代目、イギリスからの移民であり、移民当初は草

現在の経営者ギャビン氏は3代目、イギリスからの移民であり、移民当初は草

放牧型酪農で施設はミルクパラーのみで、ヘリーボーラー12Wで2回搾乳となっています。年間出荷量は1800トで、カントリパーレー工場（地域の小規模乳業）へ飲用向けとして出荷しています。18年間、干ばつが続いており水不足となり得るので、灌漑施設は整備。近隣ワラガンダムより給水しますが、ダムが空になる可能性もあります。環境面は、約20年前に連邦政府により規定された厳しい取り締まりがあるとの事。糞尿の草地への再利用を通じゼロランド（汚染水などの廃棄をしていない）の取り組み。モニターとして参加し毎年基準をチェックされています。基準を満たしていない場合、多額の罰金、生産停止。新興住宅街のた

め、近所からの臭気など苦情が多い事が悩み。AUS酪農は、日本同様、酪農家戸数は減少の一途を辿っていて、2001年の1万2千戸から2011年には7千戸に減少しています。その理由は、2000年に政府による価格支持、直接支払制度が廃止された他、新たな担い手がほとんど育っていません。酪農家の平均年齢は72歳。家族経営から会社経営（規模拡大）へとシフト。

新規就農には200万〜250万AUS\$かかり、コストと収入が見合わない、技術的研修を重ねる手法がないなどの理由で、ここ30年ほど後継者以外のほとんどは就農はありません。離農も多く、農地は沿岸部では宅地へ、住宅遠隔地は肉牛、飼料畑として転換されています。



経営概況について、25エーカーの土地ですが、この界限ではやや大きな規模になります。シドニー近郊の土地は非常に高価であるため、高価な土地を利用してどのような利益を上げるかが切実な問題となっています。

エキシリー野菜農場 地価が高いため、小面積で収益率が高く 効率的な野菜を作付け

小規模の土地だとジャガイモには適さず、したがって少ない面積で収益率が高い野菜を作付けしています。

中でも良いのはズッキーニです。15エーカー以下の土地（農園）の場合、多くの野菜を作付けできず収入が低くなるので、生活的（経営的）にはかなり厳しいものになります。

す。

NZが国民上げて主産業である酪農を側面的に応援しているのに対し、AUS酪農はガイドの言葉を借りるとDog is DOG（弱肉強食）の世界であると実感しました。

その場合、野菜よりも水耕栽培に移行し、ハーブなどのもつと収益率が高いものを栽培するしかありません。

経営主がインド人を5〜6人雇用して野菜作りを行っています。野菜栽培が肉体的には農業の中では一番つらく重労働です。野菜栽培は機械化しづらい農業であり、中国からの移民が最近は多く来豪していますが、中国人は全く機械化していません。

以上の雑駁な内容となりましたが、このたび訪問した各国において、NZ・AUS酪農を日本で真似することは不可能だと感じましたが、環境問題などについては学ぶことも多く、厳しい規制の中で酪農家自身が高い意識を持って取り組んでいる実態を知ることができました。

最後にご支援くださった皆様のおかげで充実した研修をおくることができました。今回の視察研修で英語を話すことができたなら、もつともつと深く知ることができ、友好も深めることができましたのではと思いましたが、ご協力いただいた皆様から感謝とお礼を申し上げます。

生産、出荷管理についてはピーマン、ナス、ズッキーニ、トウモロコシなどを栽培しており、1年で5種類く

第5期みらい塾 受講生の修了レポート紹介

1年間みらい塾で学んできたことや体験などが寄せられましたので掲載いたします。

講義・視察、牧場視察など仲間と共に学んだ1年間



内藤 俊

私にとってみらい塾での1年間は、あつという間であり短く感じました。

私は専門学校を2年間通い、仙台で1年間、前田道路という会社で社会人として働いていましたが、震災に遭

い車の中で1週間過ごす生活を送っていて、「星って何で綺麗なんだろう」と思い始め、このまま死ぬ訳にはい

かないと思ひ、会社を退職することにしました。みらい塾に入ろうと思つた動機は、両親には継がなくていいと言われましたが、両親はもちろんです。21年間お世話になつて牛に今度私がお世話をする番だと思

い、卒業してから酪農に携わつていない3年間というスパンをいかに埋めていくかと考えた時にお誘いの話があり入校を決めました。

みらい塾の塾生4人とは面識がなく、うまくこの1年間楽しく学べるか不安でしたが、講義の回数を追う毎に仲良くなり、打ち解け

る事が出来、受講も受けやすく楽しかったです。農協の仕組みや部署などがどのような系列で仕事を行つているのか分からなかつたため、講義を通して改めて知ることが出来、どんな人達がいてどういう業務をしているのか知ることが出来て良かったと思います。

次に普及センターの方や、獣医さんに飼料管理・乳房炎・周産期病等対策や抑制について、沢山の多くの事を学ばせて頂く事が出来ました。また、普及センターの方につきまして講義は勿論、他の農家さんの所に現地視

察等させていただきとても勉強になりました。次に畜産課・牧場課については、哺育・育成期の牛の扱い方や体調が悪くなつた牛の対応の仕方や牛にとつてくつろげて安全な環境、初妊牛づくりや太らせすぎは良くないなどコストに関連した事も教えていただき、AIのタイミングや見つけ方などとても勉強になり、これから経営していく上でとても参考になりました。

また、営農計画書の作成・農業簿記などについても学ばせていただきました。私は農業簿記を実際にやってみて、初めての事ばかりで頭がパンクしました。ですが、

直接に馴染むことができ、楽しくみらい塾に参加することが出来ました。

みらい塾の1年間の受講の内容では、とても幅広くのことが学べました。私たちの酪農経営は様々な関係機関の方々との関わりがあり、経営の支援をしてくださる農協の方々については各業務の内容や営農計画、農業簿記のやり方を学べました。

講師の方に助けられ無事に終える事が出来ました。私は酪農とは毎日同じ仕事をしているように思いますが、分婉にしても何にしろ毎日勉強だと感じています。5期みらい塾のメンバーとは今後とも交流をもち、コミュニケーションを取っていきたいと思います。

みらい塾を終えて



田口 皓基

昨年1月にみらい塾に入塾し1年を通して勉強会や研修会、牧場視察や工場

見学を行いました。その中でたくさんのお話を学び新たな知識も身につけ、1年はとてもあつという間でした。私は家業である酪農の後継者になるために別海高校農業特別専攻科に入り、2年間酪農について学んできました。そして、もつと知識や技術の向上と共に農協

をはじめとする関係機関の業務や仕事内容を理解したいと思ひ、みらい塾に入講させていただきました。また、この機会に同業者とのコミユニケーションを増やし、新たな仲間づくりができたならと思ひました。みらい塾の受講生は5人と少ない人数なので、初めは仲良くなれるかなど不安や緊張もしましたが、皆良い人ばかり

で直に馴染むことができ、楽しくみらい塾に参加することが出来ました。

改良普及センターや試験場の方々からは乳牛の飼養管理や草地の植生改善や維持管理について、共済組合の方からは乳牛の疾病や治療方法、ジェネティクス北海道の方からは家畜の改良や増殖について、雪印メグミルクの方からは私たちが生産する牛乳の加工や流通について学ぶことが出来ました。そして、日々私たちが安全な

増岡 耕平

牛舎内は清潔で 牛に汚れが目立たなかった



沖縄県の酪農家を視察し、北海道とは違う酪農を学びました

2月4日から2月7日までの4日間、私たちがみらい塾5期生は沖縄県の酪農家の視察研修に行きました。

牛乳を出荷できるように乳質検査を行ってくれる酪農検定検査協会の方、こういったたくさん関係機関の方々の支えがあり私たち酪農家の経営が成り立っていることがわかりました。

また、牧場視察について は各農家それぞれのやり方や工夫がありとても勉強になりました。中でも視察先の農家さんはとても牛がきれいだっただけが印象強く、こうした飼養管理を行い、牛や人間にとつていい環境をつくっていくことが良い

経営につながると感じました。この先、私たちが経営者に近づくと共にTPPや消費税の増税と農業情勢は厳しくなるかもしれませんが、このみらい塾で学んだことを忘れずに、これからの仕事を

事に励み、これからの経営に活かして生きたいです。最後にありますが、この1年間という短い時間の中でたくさん学ばせてくれた農協さんをはじめとする各関係機関の方々のご協力、ご指

導があったからだと思いません。お忙しい中での勉強会や講習会、視察を受け入れてくださったことに感謝申し上げます。1年間本当にありがとうございました。

3泊4日という短い間でしたが、とても充実した沖縄視察研修を終えることができました。気候については、沖縄の冬は北海道の秋という感じがし、沖縄の人のほとんどが長袖、または防寒着を着ていました。研修中の気温は4日間ほぼ変わりなく、15℃前後と過ごしやすい環境でした。しかし、4日間全て曇りだったのが残念でした。沖縄到着時、海は大しけとなっており、3日目は雨が降りましたが、4日目の沖縄出発時の海は、天気曇りでも分かる位、綺麗な青緑色をしていました。

沖縄の街は自分の想像を遥かに超えるほど大きなビルが聳え立っていました。また、3泊4日という短い間でしたが、とても充実した沖縄視察研修を終えることができました。気候については、沖縄の冬は北海道の秋という感じがし、沖縄の人のほとんどが長袖、または防寒着を着ていました。研修中の気温は4日間ほぼ変わりなく、15℃前後と過ごしやすい環境でした。しかし、4日間全て曇りだったのが残念でした。沖縄到着時、海は大しけとなっており、3日目は雨が降りましたが、4日目の沖縄出発時の海は、天気曇りでも分かる位、綺麗な青緑色をしていました。

た、牧場に向かうにつれ、見たことのない植物やサトウキビが沢山生えており、驚きました。2月はサトウキビ収穫時期らしく、行く先々でサトウキビを収穫している人を見かけました。沖縄県酪農協牧場視察では、3件の牧場を視察し、沖縄酪農の暑熱対策、乳牛の飼養方法、牛舎の構造を学ぶことが出来ました。沖縄酪農の暑熱対策は、牛舎に壁がなく風が通り抜ける仕組みになっており、2頭間隔で扇風機が取り付けられていました。メリットは牛舎内に風が通りやすいことで、メリットは大雨の日などは牛舎内が水浸しになることと言っていました。乳牛の飼養方法は、視察先の牧場は3件とも対頭式繋ぎ牛舎で、乳牛の体格は我が家と比べ

土地が変われば、牛の育て方も違う

沖繩研修修了レポート 内藤 俊

美味しかった沖繩料理に舌鼓

2月4日から2月7日までの4日間、私たちみらい塾5期生は沖繩県の酪農家の視察研修に行きました。飛行機を乗り継ぐこと6時間、無事に沖繩県に到着しました。天気は曇りで沖繩に來たのに肌寒い思いをしたのを覚えています。

到着した晩に、まず全酪連の職員の方と沖繩の居酒屋で懇親会を開かせていただきました。沖繩の料理と

言えばあまり美味しくないイメージだったのですが、実際に食べてみると沖繩の料理はとてもおいしく、地元オリオンビールもとても美味しかったです。

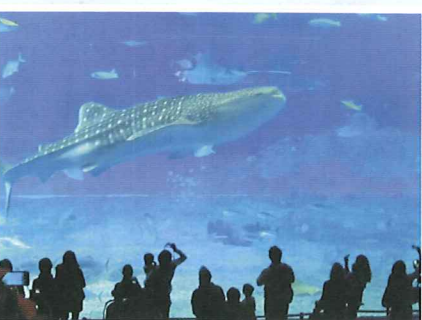
全酪連の方とは酪農の話はもちろんですが、沖繩の料理について、家族の事についてなどの話を聞かせていただき、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。



沖繩の酪農事情について説明

飼料は全てアメリカから輸入

2日目は朝から、3件の牧場を視察させていただきました。沖繩県の牛舎には壁が無く、扇風機が約2頭に1台付いているのに驚きました。飼料は全てアメリカからの輸入に頼っており、本州からは入れていないのも驚きました。また、輸送料が高額になるのと、沖繩県は台風が多いからという理由で、沖繩県では敷料を敷いていないところが多かったのも驚きました。



美ら海水族館でジンベイザメの大きさにびっくり



営農状況に熱心に耳を傾ける参加者

を行わせていただきました。最初は酪農のことについての話がメインでしたが、お酒が進むにつれ、人間関係で大切なことなどについての話もしていただき、とても有意義な懇親会になりました。

乳牛のほとんどが北海道から導入

今回の視察で感じたことは、「土地が変われば牛の育て方も違う」という事です。全国の酪農家の方は「費用をかけずにいかに乳量を増やすか」を考えているのは共通ですが、環境が違えばその方法も違っており、「安くくていいエサ」もまた全国で違っているのだと感じました。他にも「沖繩県の乳牛は、北海道から導入した乳牛がほとんど」という事も勉強させていただきました。日本の北と南で3000キロも離れた土地ですが、飼っている牛はほとんど変わらないのも驚きでした。

沖繩県の事、沖繩の乳牛の事、沖繩県の酪農家の事、遠い地でありよくわからなかつたのですが、今回の視察を通じてたくさんのお話を聞くことが出来、大変有意義な視察研修となりました。

営農対策情報

根室農業改良普及センター

乳検成績の見方 ~変更された成績表~

平成25年11月より、乳検検定成績表が新しくなったことにお気づきですか？今回の改正では、新しく追加された項目や、より詳しくなった表示など、有用なデータが満載です。

これを機会に我が家の乳検データを今一度見直してみてはいかがでしょうか。

(1)新しく追加された項目

今回これまでの乳成分に加え、MUNとP/F比が追加されました(図1①)。これにより乳成分を総合的に判断できるようになりました。

MUNは乳中尿素窒素のことです。

飼料中のタンパクとエネルギーのバランスを見る指標です。一般的には飼料に含まれるタンパク含量が増える、もしくはエネルギーが減少すると値が増加します。目安は10~14mg/dlです。

P/F比は乳脂率に対する乳タンパク率の比率(%)です。

粗飼料の充足状況やルーメン発酵の状態を見る指標で、数値が高くなると濃厚飼料多給、低くなると飼料のエネルギー充足率の低下が疑われます。70~100%が

目安(群の場合)となっています。

(2)乳量階層、搾乳日数区分の追加

今回の変更で、乳量と搾乳日数の区切りが以前より細分化されました。ここでは1産と2産以上で分けて傾向をつかむことができます。

○乳量推移

分娩直後(21日以下)極端に乳量の低い牛がいないか、ピーク乳量が順調に出ているかを確認します(図1②、③)。

これらに問題がある場合には、分娩前後の疾病、分娩から泌乳ピークまでの飼料給与方法、過密等管理方法に問題がないかを確認します。

○体細胞数推移(単位万→千へ変更)

初産牛の搾乳日数21日以下で体細胞数(図1④)が高い場合は、育成時もしくは分娩時の乳房炎感染、搾乳への馴致の不足、等が推測できます。

同様に2産以上での搾乳日数21日以下での体細胞数(図1⑤)が高い場合、乾乳牛の管理に問題があるか、分娩時の乳房炎感染を推測

できます。

搾乳日数全体の体細胞数の傾向を見て(図1⑥)特定の時期に偏りがなく体細胞数が高くなった場合には、搾乳手法、搾乳機器の問題か、もしくはサイレージ品質悪化に起因する抵抗力の低下による乳房炎の感染も疑われます。

(3)月別予定分娩頭数(図1⑦)

今回の改正で掲載月が増え、半年以上先までの分娩予定頭数が把握できるよう

になりました。

6~9月の農繁期に分娩が集中する場合、暑熱ストレスも加わり、分娩時の事故が増加するかもしれません。分娩房などの確保、暑熱対策は万全ですか？早めの対策が望まれます。

乳検は、毎月、多大な労力とコストをかけ、蓄積したデータが詰まっています。今回紹介したのは一部ですが、自身の農場に必要なデータを見極め、活用しましょう。

検定日 乳階層	1産					2産以上				
	21日以下	22日~50日	50日~100日	100日~200日	200日~300日	21日以下	22日~50日	50日~100日	100日~200日	200日~300日
55以上										
50										
45										
40										
35										
30	46		4	4	2	2	4	2	3	1
25	55		6	17	3	3	5	13	11	4
20	38	1	2	9	1	1	2	8	10	7
15	12								6	3
15未満	12	1				3			2	6
頭数	208	1	4	13	31	6	4	13	41	49
平均乳量	23.8	23.2	28.5	26.1	28.2	15.7	34.0	37.4	36.4	27.1
乳脂%	3.95	3.73	3.50	3.92	3.9	3.9	3.84	4.01	4.12	4.12
蛋白質%	3.11	3.12	3.10	3.41	3.3	3.3	3.35	3.54	3.78	3.78
無脂糖	8.80	8.80	8.83	8.97	8.8	8.8	8.82	8.90	9.01	9.01
MUN mg/dl	④	13.0	12.1	13.2	11.8	12.2	⑤	10.1	11.3	12.0
P/F比%	84	89	87	87	94	94	80	85	87	88
体細胞数(千)	1155	103	49	110	35	201	433	666	164	363
リニアスコア	7.0	3.0	1.5	2.1	1.3	3.3	4.3	2.6	2.0	2.8
スコア5以上出現率%	100	25		6	50	67	23	9	15	8
濃飼量	16.0	16.0						0	16.0	16.0
月別分娩予定頭数	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
頭数(初産)	12頭	18頭	26頭	15頭	19頭	28頭	22頭	17頭		
	2x	5x	5x	6x	7x	10x	3x			

図1 乳検成績表(一部抜粋、検定表左下部)

活動を通し充実した一年になるよう

1月23日(木)、白樺食堂において第26回定期総会が開催されました。

総会開催を前に、平成25年度新規エクセレント獲得並びに特別賞授賞式が行わ

れ、新規エクセレントを獲得された山田光男さん、橋本幸二さん、浮川優さんが

表彰されました。続いて特別賞として自家生産牛3代3姉妹エクセレントを達成された山田光男さん、2013北海道ホルスタインナショナルショウにおいてリザーブ・インターミディエイトチャンピオンを獲得さ

れた山田晃嗣さん、そして繁殖者賞として青森県においてエクセレントを獲得した牛を生産した山田博和さんが表彰されました。総会の開催にあたり竹田潤会長より1年の活動をふりかえり、新年度に向けた



挨拶が述べられ、続いて総会の開催を祝い農協を代表して藤倉紀夫副組合長、来賓の方々を代表して(二社)ジエネティクス北海道東事業所所長・梅田昭氏より祝辞をいただきました。議事に先立ち美原地区の田中克好さんが議長に選出され、議案第1号「平成25年度事業報告及び収支決

算書」、議案第2号「平成26年度事業計画(案)並びに収支予算(案)」、議案第3号「平成26年度会費の賦課並びに徴収方法」について協議され議案第1号から議案第3号まで可決承認されました。昨年度の各事業としては当同志会事業はもちろん町協議会、管内協議会への事業などにも積極的に参加し、共進会においても中春別ホルスタインの活躍が際立った1年だったと思います。総会を終え新たな1年がスタートしますが、同志会活動並びに中春別ホルスタインにとって素晴らしい1年になりますよう期待したいと思っております。



労働力補完に努め、ゆとりある生活を

中春別営農サポート協議会の第12回通常総会が2月6日(木)農業者団地センタートレーニング室において開催されました。

開催にあたり馬場会長より挨拶があり、続いて来賓の中春別農業協



挨拶を述べる馬場会長

同組合副組合長理事・藤倉紀夫氏、中春別酪農対策協議会副会長・原内修氏より祝辞をいただきました。議長には中春別地区の池田正人会員が指名され、議事に入りました。

第1号議案「平成25年度事業報告及び収支決算について」、第2号議案「平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)について」、第3号議案「賦課金の賦課及び徴収方法について」、第4号議案「役員の変更について」以上、全4議案が提出され、全議案が賛成多数により承認されました。第4号議案では役員選考委員長の原内修会員より役員選考の結果が報告され、拍手多数の中、新役員が決定しました。最後に佐藤副会長より閉会の挨拶が述べられ、第12回通常総会を終了いたしました。

今後とも中春別営農サポート協議会では会員の皆様のゆとりある生活を目指し、労働力補完に努めてまいります。本年度も昨年同様、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成26年度からの新役員構成は以下の通りです。

- 会長 南澤 齋
- 副会長 所 勝弘・安達辰美
- 理事 久保朋子・小林婦美子・小原登代子
- 監事 高橋 学・小湊 均



議案を説明する南澤副会長、26年度から新会長に就任

平成25年度根室地区JA温泉湯治が、2月4日から6日にかけて川湯観光ホテルにて開催され、当JAから5人が参加されました。

1日目、温泉に浸かったり、ホテルでのんびりと過ごされた後、初日の宴会がスタート。豪華な食事を堪能していると、宴会中には岬まりこさんの歌謡ショーが始まりました。数々の名曲が披露される中、皆さん歌を口ずさみ大変楽しんだ様子でした。その後、毎年恒例であるビンゴ大会が行われ、最初はなかなかビンゴという声がありませんでしたが、最初の当選者

あがり、あつという間に景品がなくなり楽しい宴会が終了いたしました。2日目は前日、歌謡ショーを披露していただいた岬まりこさんをお招きしてのカラオケ教室が行われました。2時間という短い時間ではありましたが、プロ歌手から教わる節回しや曲の「さび」のところの出し方などを学び、皆さんそれぞれ真剣に教わりながら、そして楽しまれたのではないのでしょうか。その後、昼食のカレーライスを食べ、お昼からは映画鑑賞「フラガール」が上映され、皆さん堪能されていたようです。

根室地区JA温泉湯治

いい湯につかって 心も身体も癒されました



が「ビンゴ」と景品受け取ったのを境に次々と「ビンゴ！」という声

今年も参加者が少なく少し寂しい温泉湯治となりましたが、来年は多くの人が参加していただけることを楽しみにしています。

夜からの宴会には、カラオケ大会が行われました。今回は参加者が少ないということもあり、皆さん歌いたい曲を自由に歌うというスタイルで進行了しました。人数が少ないからでしょうか？皆さん次々と曲が途切れることなく歌い続け、カラオケ教室の成果もあつてか、磨きがかかった自慢のどを披露され、その日の宴会は終了しました。その後も皆さんそれぞれ最後の夜を楽しみましたようです。

北海道別海高等学校 酪農経営科・専攻科だより

●【専攻科】北海道青年農業者会議参加

1月28日(火)～1月29日(水)、北海道自治労会館を会場に平成25年度北海道青年農業者会議が開催されました。今年は専攻科から、昨年12月に行われた根室管内青年農業者会議のアグリメッセージ部門で最優秀賞に選ばれた1年目学生の深代ミドリさんが参加しました。

1日目は飛行機が欠航して開会式に出席できないというアクシデントがありましたが、交流会には間に合い、悪天候をものともせず集結した全道の青年農業者及び関係機関の方々とは有意義な語り合いの機会を持ってました。アグリメッセージ部門の発表は2日目に行われ、若き後継者や新規就農者の方々がそれぞれ自らの農業に対する思いを聴衆に向けて語りました。その中で深代さんは、困難な状況の中でも前進しようとする若者を励ます力強いメッセージを発信し、会場からひととき大きな拍手がわき起こりました。結果、「審査員特別賞」を受賞することができました。この賞は当日深代さんの発表を聞いた審査員の方々がその内容に感動し、その場で文字通り特別に判断して称えたものです。今回の受賞と様々な出会いを糧に、彼女のさらなる飛躍を願います。



(文責:寺内)

●【専攻科】加工実習を実施

2月4日(火)、2月10日(月)別海町乳加工研修施設および農漁村加工体験施設において専攻科1年目学生が参加し、チーズやソーセージ、パン製造の加工実習を実施しました。



参加学生は、研修・体験施設の古川さん、松原さん、守川さんの丁寧なご指導のもと、酪農従事者としての目線で、牛乳などを原料とした加工品がどのようにできるのかを、興味深く学んでいました。学生からは「これからチーズの研究をおこないたい」「製造工程の違いでどのように味の変化があるのか確かめたい」といった声が聞かれ、非常に有意義な実習となりました。

【酪農経営科&専攻科】 海外研修報告会&就農激励会を実施

海外研修を終えた農業特別専攻科2年目学生と酪農経営科酪農経営コース3年生の合同報告会が1月27日(月)に、本校体育館にて開催されました。本年度は農業特別専攻科2年目学生(門脇翔太君、栗野伊久美さん)の2人がニュージーランドにて68日間の酪農研修を行いました。酪農経営科酪農経営コース3年の生徒2人(畠山政貴君、山屋歩夢君)は、幕別町忠類で大規模飼育の酪農場で研修した成果と北海道ナショナルホルスタインショーの研修を発表しました。

報告会は別海町酪農後継者を育てる会の役員を始め多数の来賓を迎え、研修に参加した生徒・学生がそれぞれ視察研修先での写真を用いて研修報告を堂々と発表しました。

ニュージーランド北島ケンブリッジの酪農家で研修した門脇君は、放牧の特徴やシェアミルク制度などについて感想を交えながら成果を報告しました。南島クライストチャーチ近郊のカンタベリー地方で研修した栗野さんは、自分達の生活を大切にして酪農経営に取り組む姿勢に特に感激したことを自家の経営に取り込んでいきたいと報告しました。

報告会終了後には、酪農後継者として本年度卒業を予定している酪農経営科生徒2人と農業特別専攻科学生8人と来賓が一堂に会して、就農激励会が行われました。参加生徒・学生は、これからの抱負を交えてそれぞれ挨拶し、来賓多数から激励の言葉を沢山いただきました。



今年度卒業・修了する生徒

(文責:鈴木 新)

【酪農経営科】活動内容を報告

1月24日(金)本校体育館で農業クラブの東北道実績発表大会に出場した4発表が、全校生徒の前で発表を行いました。

この取り組みは、酪農経営科で活動している内容を普通科の生徒にも知ってもらおうと始めたものです。農業に関する実習など学習面で接することが少ない普通科生徒に、日常とは違った酪農経営科の生徒の生き生きとした様子の紹介に感心しながら、熱心に4つの発表を聞いてくれました。

なお、2月5日(水)、6日(木)には、美幌町で行われた全道実績発表大会に、クラブ活動発表部門に本校代表生徒3人が参加しました。

(文責:鈴木 新)

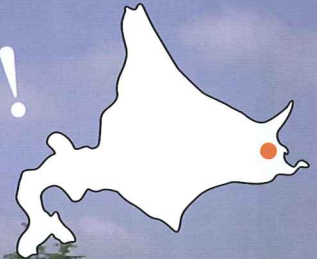
根釧酪農郷からの出発

北海道別海高等学校農業特別専攻科

2014年度

学生募集(2次)

Hokkaido!



働きながら
2年間学び
ます

ニュージー
ランドで研修
ができます
(半額助成)

全国各地から
学生が集まり
ます

青年就農給付金
制度対象校です



ニュージーランド農家との交流



専門性を高める授業

資料請求、詳しいお問い合わせは下記まで

〒086-0214 北海道野付郡別海町別海緑町70-1 TEL0153-75-2053 FAX0153-75-2263
ホームページ <http://www.bekkai.hokkaido-c.ed.jp> E-mail bekkai-t4@hokkaido-c.ed.jp

- 修業年限 2年
- 募集学科 農業特別専攻科(酪農経営科)
- 出願期間 平成26年2月17日(月)午前9時から3月17日(月)正午まで(土曜日及び日曜日を除く)。
- 検査日 平成26年3月26日(水)
- 出願資格 高等学校を卒業した方、もしくは平成26年3月末日までに高等学校卒業見込みの方で、畜産業に従事しながら本校に通学可能な方(寮はありません)。
- 願書配布 平成26年2月14日(金)から



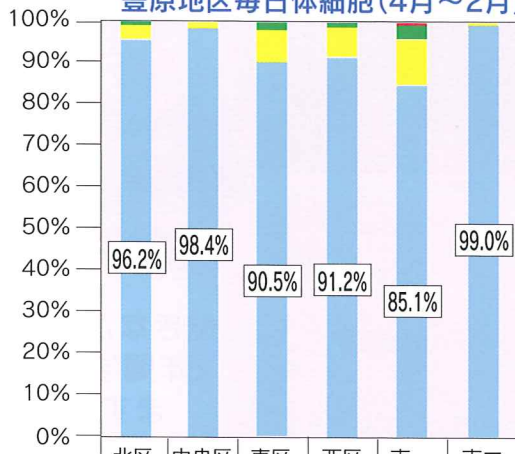
生乳汚染事故を無くそう！

- 抗生物質混入事故…………… JA中春別発生件数 6件 管内合計では15件です。
- 生菌による汚染事故…………… JA中春別発生件数 0件 管内合計では1件です。
- 異物混入、加水による汚染事故…JA中春別発生件数 0件 管内合計では1件です。
- 異臭、異常風味による汚染事故…JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。
- 血乳による汚染事故…………… JA中春別発生件数 1件 管内合計では1件です。

パイプライン、バルクの自動洗浄終了後
定期的な目視による確認をお願いいたします。

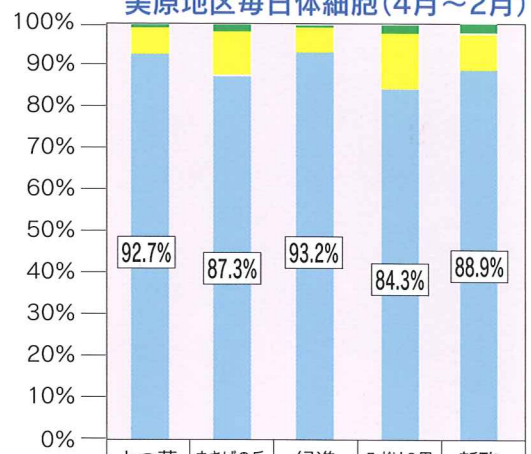
自動洗浄は万能ではありません!!

豊原地区毎日々体細胞(4月～2月)



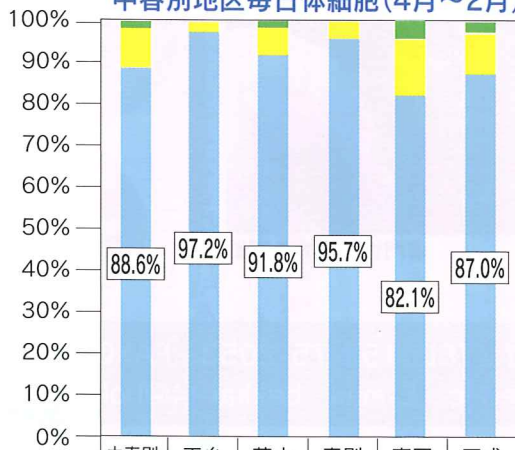
■ 50.5万以上	0.2%	0.0%	0.4%	0.5%	1.0%	0.1%
■ 40.5~50.4	0.4%	0.1%	1.4%	1.2%	3.2%	0.0%
■ 30.5~40.4	3.2%	1.5%	7.7%	7.1%	10.7%	0.9%
■ 30.4万以下	96.2%	98.4%	90.5%	91.2%	85.1%	99.0%

美原地区毎日々体細胞(4月～2月)



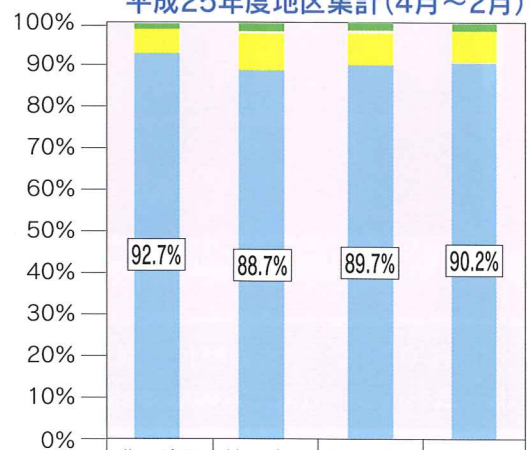
■ 50.5万以上	0.2%	0.4%	0.1%	0.3%	0.6%
■ 40.5~50.4	0.8%	1.9%	1.1%	2.4%	1.6%
■ 30.5~40.4	6.3%	10.4%	5.6%	13.0%	8.9%
■ 30.4万以下	92.7%	87.3%	93.2%	84.3%	88.9%

中春別地区毎日々体細胞(4月～2月)



■ 50.5万以上	0.4%	0.2%	0.4%	0.1%	0.9%	0.8%
■ 40.5~50.4	1.5%	0.4%	1.3%	0.0%	3.5%	2.2%
■ 30.5~40.4	9.5%	2.2%	6.5%	4.2%	13.5%	10.0%
■ 30.4万以下	88.6%	97.2%	91.8%	95.7%	82.1%	87.0%

平成25年度地区集計(4月～2月)



■ 50.5万以上	0.4%	0.3%	0.5%	0.4%
■ 40.5~50.4	1.2%	1.7%	1.7%	1.6%
■ 30.5~40.4	5.7%	9.3%	8.1%	7.8%
■ 30.4万以下	92.7%	88.7%	89.7%	90.2%

議案

1. 出資金の減口及び組合員資格の変動について
2. 平成25年度自己査定に係る債務者区分判定方法について
3. 定款並びに組合員規程の一部改正について
4. 反社会的勢力等への対応に係る関係諸規程等の一部改正について
5. 職員就業規則の一部改正について
6. 平成26年度理事報酬額の諮問(案)について
7. リース契約について
8. 平成26年度営農年度財産造成に伴う資金の貸付について
9. 平成26年度営農年度クミカン取引に係る貸越極度額及び供給限度額の変更について
10. 平成26年度草地生産性向上対策事業実施及び事業主体公募申請について

報告事項

1. 平成25年度12月末定期監査報告について
2. 組合員加入について
3. 組合員脱退について
4. 平成25年度1月末決算見通しについて
5. 平成25年度取得固定資産について
6. 平成25年度自己査定12月末仮査定結果について
7. 年度末貯金推進の実施について
8. 平成25年度決算棚卸実査について
9. 平成25年度1月末営農生産関連実績について
10. 平成26年度営農年度信用限度について
11. 組合員の離農処理について
12. 別海町国営環境保全型かんがい排水事業促進期成会役員の変更について
13. 育成舎等改修に係る固定資産取得額の変更について
14. 固定資産の処分について
15. 生乳抗生物質汚染事故発生報告について
16. 共和育成牧場預託牛の事故に対する互助会規程による見舞金の支払いについて
17. 別海町畜産環境に関する条例(案)検討会顛末について

協議事項

1. 別海バイオガス発電事業に係る経過と取り進めについて

1月 乳質乳価一覧表

(単位:円/kg)

		単価	算出基礎	支払乳価	前年同期	差	
乳脂肪分		796.536		31.99	32.36	-0.37	
無脂乳固形分		502.053		44.32	44.34	-0.02	
補給金		4.8761		4.88	5.38	-0.50	
計画チーズ奨励金							
乳質単価	生菌数	ランク1	2	309,239,895.7kg	3.73	3.69	0.04
		ランク2	0	5,483,487.8kg			
		ランク3	-3	136,595.8kg			
	体細胞数	ランク1	2	268,538,731.8kg			
		ランク2	1	25,431,408.2kg			
		ランク3	-2	3,066,533.9kg			
合計				84.92	85.77	-0.85	

1月分乳代支払単価

項目	単価(円)/(kg) %	
乳脂肪分①	31円99銭	
無脂乳固形分②	44円32銭	
補給金③	4円88銭	
チーズ奨励金④		
脂肪率	全道	4.02%
	農協	4.04%
無脂固形分率	全道	8.83%
	農協	8.79%
成分乳価	全道	81円19銭
①+②+③+④=⑤	農協	81円24銭
乳質乳価⑥	全道	3円73銭
	農協	3円75銭
乳代合計	全道	84円92銭
	農協	84円99銭
⑤+⑥	差異	7銭



楽しい家族と一緒に

望月さん家のウイングくん・グランドくん

ボーダーコリー♂ 13才

ゴールデンレトリバー♀ 12才

豊原地区・望月 英彦さん家

★飼い始めたきっかけ

知人の紹介で繁殖している方からゴールデンレトリバーのグランドを譲っていただきました。ウイングは奥さんが黒い犬を飼いたいと思っていたこともあり、役場の担当の方に迷い犬がいると聞いてもらってきました。

★名前の由来

グランドは買い始めた時に一緒に走りまわったことと茶色なので大地をイメージして名付けました。ウイングは空をイメージして翼という意味をつけました。

★PR

2匹とも牛が逃げ出しているときは吠えて知らせしてくれることと、牛が逃げないように敷地内へ追い込んでくれ、グランドは獣医さんがくるととても吠えてお知らせし、望月家の立派な番犬を務めています。

グランドはやきもち焼きでウイングばかり構うと横入りしてきたり、ご飯も先にもらいます。ウイングは走ることが好きだったので鹿などをよく追いかけていました。



▼日がすっかり長くなり、日中の暖かさはもうすぐで春が到来することを告げていますが、冬の長い北海道はまだまだ雪の心配が頭から離れませんが、雪で通れない道路や通行止めになるなどして家の敷地から出られなかったり、または帰れなかったりなど大変な思いをしました。この時期、天気は常に心配で早く春にならないかと願うばかり。また、今年も春になったら玄関先にお花を植えてみようかなと、雪が溶けるのを楽しみに思っています。

編集後記

アドレス <http://www.ja-nks.jp>